

目次

I. 業務の概要	1
II. 業務の実施状況	1
1. 運営委員会・企画運営委員会の開催	1
2. 基本業務	9
(1) SDGs コンシェルジュ活動の展開	9
(2) 地域課題解決に向けた SDGs の活用に関するセミナー等の開催	24
(3) SDGs の活用に向けた人材育成	25
(4) 全国 EPO ネットワーク・関係事務局との連携、連絡会議参加	29
3. 地域循環共生圏の創造に資するための推進業務	31
(1) 地域循環共生圏プラットフォームの環境整備支援等業務	31
(2) 森里川海推進ネットワーク形成会合の開催	48
(3) 地域循環共生圏パートナーシップ基盤強化事業	50
4. ESD 活動支援センター運営業務	55
(1) ESD コンシェルジュ活動	55
(2) 九州沖縄地域 ESD 推進ビジョンの策定	68
(3) ESD 全国フォーラム分科会活動	80
(4) 地域ぐるみの ESD 活動の推進	82
5. 外部連携事業（外部資金を活用した取組）	88
(1) 地球環境基金との連携	88
(2) Green Gift 地球元気プログラムへの協力	90
6. EPO 九州の維持管理	94

I. 業務の概要

年間計画に基づき、下記業務を行った。

1. 運営委員会・企画運営委員会の開催
2. 基本業務
3. 地域循環共生圏の創造に資するための推進業務
4. 九州地方 ESD 活動支援センター運営業務
5. 外部連携事業（外部資金を活用した取組）
6. EPO 九州の維持管理

II. 業務の実施状況

1. 運営委員会・企画運営委員会の開催

EPO 九州の活動について、環境パートナーシップに関与する NPO、企業、行政、メディア、有識者等を運営委員として選定し、助言ならびに取組に応じた協力・連携を得て、円滑かつ効果的な運営に取組んだ。

運営委員会は、EPO 九州・九州 ESD センターの運営方針、事業計画について協議を行うとともに、九州・沖縄地域内の環境パートナーシップや ESD 推進ネットワーク形成に係る情報交換や実態の把握とそれらをとおした課題の洗い出しを行い、EPO 九州の運営や事業実施についての助言を行う。本年度は2回開催した。また、九州地方 ESD 活動支援センターの運営にあたり、企画運営委員会を併設し、委員会について同時開催した。

ア、令和3年度運営委員

【EPO 九州運営委員】

	分野	県	氏名	所属
1	学識経験者	熊本県	篠原 亮太	熊本県立大学 名誉教授 熊本県環境センター 館長
2	学識経験者	福岡県	石丸 哲史	福岡教育大学社会科教育ユニット 教授 ※企画運営委員兼任、前期企画運営委員長
3	学識経験者	長崎県	山口 純哉	長崎大学経済学部 准教授
4	金融・ファンド	-	佐古 吉照	日本政策金融公庫 農林水産事業本部 九州地区統轄
5	企業・環境ビジネス	福岡県	箴島 修三	一般社団法人九州経済連合会 産業振興部長
6	地方公共団体	福岡県	中島 尚	北九州市環境局 総務政策部長

7	ソーシャルビジネス	福岡県	濱砂 清	(一社) Sinka/社会起業家支援ネットワーク九州・アジア 代表理事
8	メディア	宮崎県	見山 輝朗	宮崎日日新聞社 営業局長 兼 経営企画室長
9	NPO・中間支援	佐賀県	橋本 辰夫	NPO 法人温暖化防止ネット 事務局長
10	自然共生・啓発	鹿児島県	浜本 奈鼓	NPO 法人くすの木自然館 理事 ※企画運営委員兼任
11	NPO・中間支援	沖縄県	岸信 朋	ミライメラボ 代表

【九州 ESD センター企画運営委員】

1	ESD 実践団体	福岡県	日高 京子	北九州 ESD 協議会 運営委員長
2	地方公共団体	熊本県	池田 賀一	熊本市環境政策課
3	企業・公益活動	熊本県	大野 芳範	公益財団法人肥後の水とみどりの愛護基金 常務理事
4	教育委員会	鹿児島県	福留 忠洋	屋久島町教育委員会 教育振興課 学校教育係長
5	学識経験者	沖縄県	大島 順子	琉球大学国際地域創造学部 観光地域デザインプログラム 准教授
6	ESD 普及啓発団体	大分県	桑野 恭子	認定 NPO 法人地域環境ネットワーク

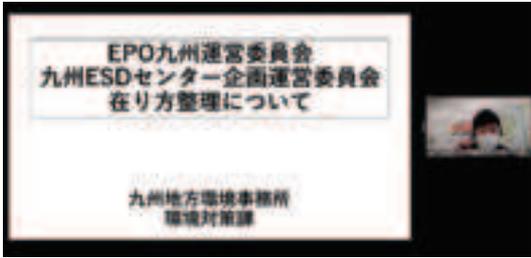
イ、運営委員会の開催状況

①九州地方環境パートナーシップオフィス運営委員会の開催状況

行事名	令和3年度第1回 EPO 九州運営委員会
開催日等	日 時：令和3年6月3日(木) 14:00-16:30 ※事前説明セッション 13:00-13:30 会 場：オンライン開催 出席者：18名 ※ESD センター企画運営委員会と一体開催。
目的	令和2年度の運営状況の報告、令和3年度運営計画の協議・助言、および個別事業に対する連携内容を検討する。 また、委員会開催前に事前説明のセッションを設け、全国及び地方 EPO 事業の内容、機能、そして地域循環共生圏事業、ESD 事業について補足説明を行った。
概要	<次第> 1. 開会 2. 出席者紹介 3. 令和2年度評価委員会報告 4. 令和3年度 EPO 九州運営報告について 5. 令和3年度九州 ESD センター運営報告について 6. その他

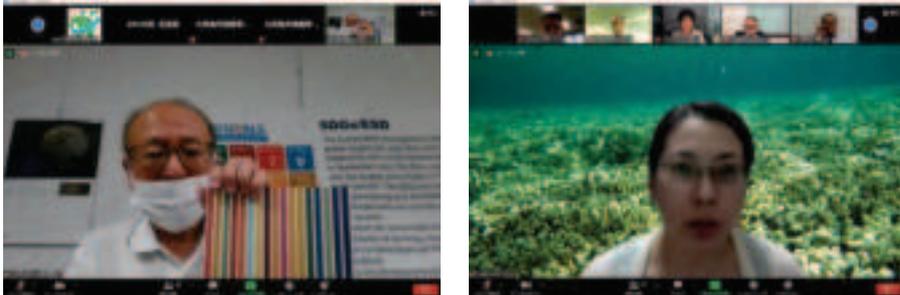
成 果	EPO 九州の第5期運営の2カ年目として、中期活動方針に基づき EPO 九州が地域循環共生圏の実現に向けて行う活動について示し、各委員の専門的な知見より助言を得た。
検討 指摘事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・環境経営における大企業だけではなく、中小企業やベンチャー企業の事例をクローズアップし、多様な参加者の参画を目指すべきだろう。 ・昨今のコロナウイルス感染拡大の状況から、企業が新たな会議体に参加することが困難なため、各県の会議体についての情報を収集し、参加を通じたネットワーク拡大、またはオンラインの場での存在アピールが有効である。 ・経済産業局では SDGs について動きが活発化しており、環境省と情報交換を進めることが有効である。 ・SNS 等発信力の強いネットワークと接続することが重要である。 ・環境活動は地道な継続が必要な一方、コロナウイルスにより環境活動が鈍化している状況がある。 ・地球規模の環境課題を、身近なこととしてどこまで下ろせるかが課題であり、地域完結、地域埋没ではない活動が重要である。
写真	 

行事名	令和3年度第2回 EPO 九州運営委員会
開催日等	<p>日 時：令和4年2月22日（火）14:00-16:30 ※事前説明セッション 13:00-13:30</p> <p>会 場：オンラインと対面を併用し開催 出席者：21名 ※ESD センター企画運営委員会と一体開催。</p>
目的	令和3年度の運営状況の報告、令和4年度運営計画の協議・助言、および個別事業に対する連携内容を検討する。
概要	<次第> 1. 開会 2. 出席者紹介 3. 令和3年度 EPO 九州運営報告について 4. 令和3年度九州 ESD センター運営報告について 5. 委員会のあり方整理について 6. その他
成 果	出席委員に対して、令和3年度の EPO 業務活動状況を報告し、次年度活動に関する助言をいただいた。 コンシェルジュ業務に代表される、アクターのニーズに対応した活動に評価をいただいた一方、提示する情報の整理、メッセージの精査や、企業、金融機関への地域状況に応じた活動の実践指針が示された。

	<p>また両委員会のあり方について、九州地方環境事務所から提案を行い、次年度以降の開催、委員構成等に反映を行う方針を共有した。</p>
<p>指摘 検討事項等</p>	<ul style="list-style-type: none"> • SDGs コンシェルジュ業務は今後の EPO 九州の活動の主体となりうる。 • カウンセラー協会とのネットワークづくりについて、カウンセラー全体の活性化やアップデートに期待したい。以前とは状況が変化し、カウンセラー自身も新たなインプット、ブラッシュアップが必要になった。 • 地域循環共生圏事業については、同様の悩みを持つ地域があることからプラットフォームの活動プロセスが先行事例となる。 • EPO の言葉には「カタカナ」が多い傾向にあり、そこには英語圏のニュアンスが入ることから、用語の持つ意味合いを整理したほうがよい。 • 頻出する「プラットフォーム」の概念が形骸化しないように、正しく伝達されていくようなメッセージの出し方を検討すること。 • パートナースhip基盤強化事業において、金融商品開発、SDGs の取り組みが進む中、中央の銀行に比較して、本業と SDGs が結びついていない地方の金融機関と企業が多いと感じた。 • SDGs コンサルティングの際、環境とビジネスの両面を見ながらアドバイス・ファシリテートする人材が銀行内に不足していることから、EPO を含めた外部機関と連携してほしい。 • 各金融機関が本当に熱心に事業に参加しているので、この取組を続けることで何らかの成果が得られると感じる。 • 日程から参加できない金融機関もあり、九州全域の金融機関を対象に開催回数を重ね、参加者でノウハウを共有する方法を模索してほしい。
<p>写真</p>	 

②九州地方 ESD 活動支援センター企画運営委員会の開催状況

<p>行事名</p>	<p>令和3年度第1回九州 ESD センター企画運営委員会</p>
<p>開催日等</p>	<p>日 時：令和3年6月3日（木）14:00-16:30 ※事前説明セッション 13:00-13:30 会 場：オンライン開催 出席者：18名 ※EPO 運営委員会と一体開催。</p>
<p>目的</p>	<p>令和2年度の運営状況の報告、令和2年度運営計画の協議・助言、および個別事業に対する連携内容を検討する。</p>

<p>概要</p>	<p><次第> 1. 開会 2. 出席者紹介 3. 令和2年度評価委員会報告 4. 令和3年度 EPO 九州運営報告について 5. 令和3年度九州 ESD センター運営報告について 6. その他</p>
<p>成果</p>	<p>今年度の事業運営について、各地域委員よりセンターの認知向上や、教育者への支援について意見交換がなされ、九州沖縄地域における ESD 推進ビジョンに関する議論が行われた。</p> <p>新型コロナウイルス感染拡大等、困難な状況に対応した支援のあり方、オンラインの活用について議論がなされたほか、ESD 実践者のニーズに対応した支援方針について提案が行われた。</p> <p>以上の議論から、地域ぐるみの ESD 実現に向けた今年度九州センターの活動方針に反映を行った。</p>
<p>指摘 検討事項等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域でのネットワークは構築できているが、全国の事例については九州 ESD センターの助力を得るほかない。一方、学校教育現場ではセンターの認知が低いことから紹介を進めたい。 ・ESD の対象がユースとなっていることから、継続した活動のため、児童生徒が自主的な組織を作る支援を検討いただきたい。 ・オンラインツールが普及したことから、ユース同士でユースを育成するような働きかけが必要であると考え。 ・小中学校の環境教育が、新型コロナウイルスの状況から停滞しているため、動画掲載などの施策で低年齢からのインプットを行っている。その結果保護者の意識変容にもつながっている。 ・学校のレベルは多様であり、SDGs についての視点を教員が持つことが広がりには必要。オンラインツールによる相談を日常的に行えるような体制づくりが望ましい。 ・学校現場からは、予算等のリソース不足が課題として上がっており、教員の研修機会の減少も課題の一つである。 ・オンラインにより全国の事例は身近になる一方、現場の取り組みにつながるという点で濃淡がある。 ・持続可能な社会づくりにおいては、自主的な組織づくりに向かうマインドを生むことが課題であり、その点でキャリア教育が必要である。今年度そのキャリア教育に焦点化したのは有効である。
<p>写真</p>	

行事名	令和3年度第2回九州 ESD センター企画運営委員会
開催日等	日 時：令和4年2月22日（火）14:00-16:30 ※事前説明セクション 13:00-13:30 会 場：オンライン開催 出席者：18名 ※EPO 運営委員会と一体開催。
目的	令和3年度の運営状況の報告、令和4年度運営計画の協議・助言、および個別事業に対する連携内容を検討する。
概要	<次第> 1. 開会 2. 出席者紹介 3. 令和3年度 EPO 九州運営報告について 4. 令和3年度九州 ESD センター運営報告について 5. 委員会のあり方整理について 6. その他
成 果	九州 ESD センターの令和3年度運営について説明を行い、内容の詳細について、九州・沖縄各地域の各委員から知見に基づいた助言及び協議が行われた。 今年度策定を行った九州・沖縄地域の ESD 推進ビジョンについて報告を行い、方向性について各委員と共有を行った。 各事業に置いて地域特性、社会変容に対応した活動が行われた点が評価された一方、ネットワークを構成するアクターへの分野特化や、脱炭素に留まらない広範な持続可能性への啓発活動が不足している点が指摘された。 また教育者の裾野を広げる活動として、幅広い組織、地域への ESD プログラムの周知の必要性について議論された。
検討 指摘事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・九州・沖縄らしい取り組みとして、九州センターによる島しょ地域を対象とした取り組みは順調である印象を持つ。 ・島しょ地域は細分化され、非常に多様であるが、各地への ESD 情報の周知に期待したい。特に教材の共有などの情報提供がきっかけになって繋がっていく部分もあると思われる。 ・それぞれの ESD の取り組みで目標が異なっており、同様の取り組みをしている実践者には共鳴してもらえが、共通事項がない層にどれだけ浸透できるかが重要である。 ・脱炭素、Jクレジットなど、それぞれの共通目標に合ったプラットフォームづくりなどの取り組みがあってもよいのではないかと。 ・ESD 推進ビジョンに地球温暖化活動推進員との連携が記載されているが、彼らも環境カウンセラーと同様に長いキャリアを持っており、力を発揮してもらいたいアクターなので、活性化含め活用を期待する。 ・環境省がカーボンニュートラルに注力するのは理解できるが、現在 ESD 実践者で生物多様性を語る人が少なく、その意識が持続可能な社会につながるという意識が薄いことが問題である。 ・高校生は SDGs の取り組みの落としどころがビジネスプランにされており、環境問題や人権問題を考える段階を飛ばして、ビジネスプラン策定と、コンテスト出場が常態化。本来の意味での環境や SDGs についての協議ができていないことを危惧している。

	<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育の上位にいる教育委員会を含め、教員に向けた ESD 教育を行わなくてはならない。異動によって活動が停滞するなど持続可能な ESD が行われていない。教員のすそ野を広げるためのプログラムを作る必要がある。
写真	

ウ、各運営委員と連携した取り組みの推進

●講師登壇 石丸委員、桑野委員、山口委員

案件名	大分 ESD フォーラムの開催
実施日等	日時：令和4年1月28日（金） 15:30-16:30
内容	桑野委員による企画助言/発信協力/パネラー登壇 石丸委員による地域での ESD 実践に関する基調講演

案件名	大分 ESD ミーティング
実施日等	日時：令和3年11月26日（金） 14:00-16:00 日時：令和4年1月28日（金） 15:30-16:30
内容	桑野委員による企画助言/発信協力/

案件名	地域循環共生圏基盤強化事業 地域金融セミナー
実施日等	令和4年1月19日（水）15:00-16:30
内容	山口委員による意見交換のファシリテート

案件名	ESD for 2030 学び合いプロジェクト 中学校における SDGs を活用したキャリア教育支援 「SDGs を活用したカリキュラム研修」
実施日等	令和3年8月5日（木）9:00-11:00
内容	石丸委員による小・中学校の教員に向けた基調講演

●専門的知見の提供

案件名	令和3年度 「九州・沖縄地域 ESD 推進計画（仮称）」策定検討会議
実施日等	令和3年8月27日（金）13:30-15:30

内容	EPO九州運営委員・九州ESDセンター企画運営委員 10名
----	-------------------------------

案件名	島しょESD交流会
実施日等	令和4年3月25日(金) 13:30-15:30
内容	岸信委員による講師選定等の企画調整

●情報発信協力 山口委員、福留委員、大島委員

案件名	長崎大学経済学部オンライン公開講座
実施日等	令和3年11月11日(木) EPO九州HP、SNSにて情報発信
内容	山口委員による地域経済・社会課題解決に関するオンライン講座

案件名	第12回世界遺産学習全国サミット in 屋久島
実施日等	令和4年1月4日(火) ESDセンターHP、SNSにて情報発信
内容	福留委員が運営担当

案件名	沖縄県SDGs教育連携ネットワークシンポジウム
実施日等	令和4年3月1日(火) ESDセンターHP、SNSにて情報発信
内容	大島委員によるワークショップ開催

2. 基本業務

地域循環共生圏構築に向けたネットワーク拡張

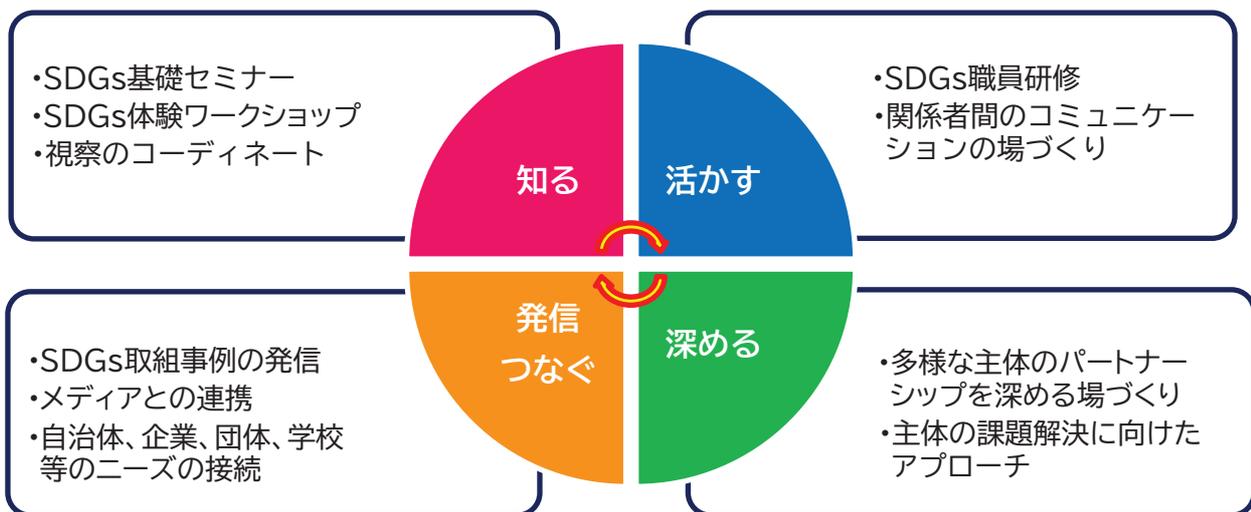
- ・地域循環共生圏・SDGs推進に向けた情報ハブとしてのEPO九州

(1) SDGs コンシェルジュ活動の展開

近年、SDGs の理解を深める場づくりや啓発について、自治体・企業・非営利団体の研修、中学校・高等学校のキャリア教育等、九州・沖縄の多様な主体から相談が寄せられている。

SDGs に関する相談を「知る」「活かす」「深める」「発信・つなぐ」といった段階的なニーズをもとに整理し、各主体に適した支援の在り方が求められており、EPO九州ではワンストップのSDGs コンシェルジュとして年間をとおした対応を強化した。

■コンシェルジュ活動のステップ



成果

①多様な主体の相談ニーズに応じたコンシェルジュ対応

- 自治体主催セミナー、業界団体・企業内研修、非営利団体研修、中学校・高等学校のキャリア教育等、多種多様な主体の相談への臨機応変な支援対応を行うことで、SDGs の認知度・理解度向上やSDGs 達成に向けた取組に対して効果的な場づくりを行った。
- 「知る」「活かす」「深める」「発信・つなぐ」の4つのステップに相談ニーズを分析することで、継続的な支援、ヨコ・ナナメの展開、ニーズの接続等、EPO九州/ESDセンターのコンシェルジュ機能を高め、各主体の取り組みが加速された。

②情報の集積・発信、メディアとの連携から広がる地域ぐるみのSDGs/ESD推進

- 国内外のSDGsに関する動向の情報を収集し、EPO九州/ESDセンターのホームページ、SNS (Facebook、Instagram) での情報発信を行った。
- 地域ローカルメディア「すばいす」のSDGs特集号、熊日日新聞の「くまにちSDGsアクションプロジェクト(全5回)」にこれまでに相談対応を行った案件を取材先としてコーディネートすることで、地域の企業・団体・学校の取組がつながり、地域ぐるみのSDGsの展開を促し、幅広く広報・周知する機会となった。

- 九州・沖縄地域のSDGs 未来都市の取り組みの紹介や、SDGs を達成するための持続可能な地域づくりとしての地域循環共生圏の考え方等の周知を行った。

ア、情報の収集及び発信

●業務目標

自治体、企業、非営利団体等の多様な主体がSDGsを理解し、また、SDGsに取り組む上で有用な情報を収集して発信することにより、各主体のSDGsに関する取組を支援し、もってSDGsに取り組むプレイヤーを増加させる。

■ウェブサイトの運営

EPO九州ホームページにおいて、地域循環共生圏関係施策、環境保全団体への支援情報、活動ツール等の情報を広く収集しを随時掲載・更新した。

またFacebook、Instagramといった、ソーシャルネットワーキングサービスの有効活用により、ウェブサイトへの誘導や、フォロワーとしての関係者の拡大を行った。

■ニュースレターの発行

地域循環共生圏特集ページを組み、PF活動団体の活動紹介紙面を充実させた。

発行概要：A4判16ページ、多色刷り

■プッシュチャンネルとしてのメルマガの発行（年間28回）

九州沖縄地域の環境保全、環境行政、環境教育に関する情報を、一元的に収集、発信するツールとしてメルマガジンを月間2回発行し、適宜臨時号を発行。鮮度の高い情報発信を行った。

また、トピックとして地域循環共生圏の実現に向けた取組、ESD推進に関する情報を重点的に紹介し、関係者へ発信、支援を行った。

地域性の高い情報として、九州沖縄各県の環境行政情報、また選定されているSDGs未来都市の活動について情報を広く収集し、トピックとして発信した。

■EPO九州SDGs啓発リーフレットの改訂

SDGs、及び地域循環共生圏の取組みを掲載するリーフレットについて、最新のSDGs未来都市選定状況を反映した新版を作成し、配布、掲葉した。

発行概要：A4版横観音折

■地域メディアの企画支援・監修対応

熊本日日新聞社が発行する地域ローカルメディアである「すばいす」SDGs特集号の企画支援を実施し、「ESDfor2030学び合いプロジェクト」における九州ESDセンターによるSDGs授業の取り組みを紹介したほか、有識者対談のコーディネート、企業によるSDGs取組事例へのコメント監修を実施した。

企画支援、監修の中では、地域のSDGs実践団体と連携し、先進的な取り組みの現場を紙面を通して広く発信した。

◎紙面発行規模：熊本市内 30万3000部（戸別配布）

◎熊本日日新聞「くまにちSDGsアクションプロジェクト」掲載一覧

- ・第1回「SDGs×法律」（11/17発行）
連携：熊本県弁護士会
- ・第2回「SDGs×若者目線」（12/17発行）
連携：国際ボランティアワークキャンプ 他
- ・第3回「SDGs×多様な若者たちの自立」（1/17発行）

- 連携：社会福祉法人 肥後自活団
- 第4回「SDGs×地域の宝」（2/17 発行）
連携：山都町立潤徳小学校、地域おこし会社 山都でしか
 - 第5回「くまもと SDGs 座談会」（3/17 発行）
有識者 熊本市国際交流振興事業団 事務局長 八木氏
熊本大学教育学部教授 宮瀬氏 他
話題提供 九州地方環境事務所 泉次長



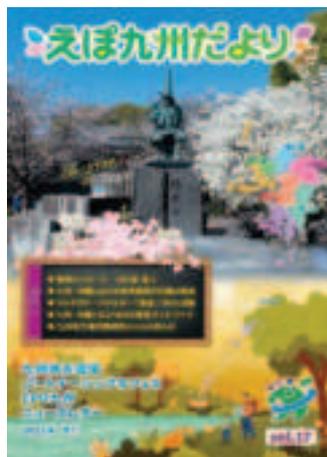
情報発信の強化を図ることを目的に、過年度事業関係者へのインタビューを行い、独自コンテンツを創出した。

また、インタビュー結果をウェブサイトやニュースレター等に掲載し、EPO九州のネットワークを活用して発信を行った。

インタビューによる コンテンツ創出	インタビュー等実施状況	
	有識者による巻頭言 ※ニュースレター	熊本大学教育学研究科 教授 宮瀬 美津子氏
	地域循環共生圏推進 過年度事業実践者	一般社団法人九州循環共生協議会 理事 山村 公人氏
	協働取り組み加速化 過年度事業実践者	NPO 法人おきなわグリーンネットワーク 理事長 西原 隆氏
	地域 ESD 推進	認定 NPO 法人地域環境ネットワーク 理事 桑野 恭子氏
	SDGs 情報発信	熊本日日新聞社 業務推進局コンテンツ開発部 井上さくら氏

ホームページ・ SNS 等の活用	四半期単位	第1 四半期	第2 四半期	第3 四半期	第4 四半期	年間
	EPO九州 Web 投稿数	136	149	144	118	547
	EPO九州 Web サイト閲覧数	104,089	168,164	415,742	723,606	1,411,601
	ESDセンター Web 投稿数	30	58	52	74	214
	ESDセンター Web サイト閲覧数	1,687	2,528	1,962	2,719	8,896

	Facebook 投稿数	139	169	171	154	633
	Instagram 投稿数	114	158	162	145	579
	メルマガ発行数	6	7	8	8	29
	メルマガ登録者数	670名（令和4年3月31日）				



ニュースレターの発送	746件（vol.17） ※主な送付先：九州・沖縄管内の自治体（SDGs 未来都市等） NPO・企業等団体、環境学習拠点、教育委員会等、 NPOセンター、ビジターセンター等、EPO 事業関係団体等
成果、特記事項	昨年度の活動状況をまとめたニュースレターを九州・沖縄地域の行政組織や、地域循環共生圏に関連する団体へ送付を行い、EPO九州の周知を行った。送付にあたっては地域循環共生圏に関する資料を同封、ローカルSDGsの関心を喚起した。 各所への送付をきっかけに自治体からの相談案件を獲得し、ネットワークの拡大ツールとして広く活用した。

■EPO九州名義後援

開催日	行事名	県	会場	主催
10月23日 10月24日	ながさきエコライフ・フェスタ 2021	長崎県	オンライン 対面	ながさきエコライフ 実行委員会

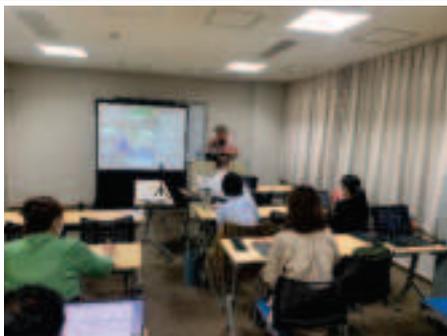
イ、各種情報の照会・相談への対応と対話の場づくり

●業務目標

自治体、企業、非営利団体等の多様な主体からの各種情報の照会・相談への対応を行う中で、相談者のニーズを踏まえながら、SDGsの認知度・理解度向上やSDGs達成に向けた取組を支援する。

EPO九州への相談内容等に応じて、対話の場づくりに努めるとともに、相談内容に応じて、EPO九州・九州ESDセンターでの対応を検討し、提案等を行った。

■相談・対話の場対応

相談者	日本キリバス協会（仙台市）代表理事 ケンタロ・オノ氏
相談内容	<p>サンゴ環礁の島々からなるキリバス共和国に、「タマナ島」がある。このタマナ島出身の国会議員・大臣より熊本県玉名市との交流について同協会にコンタクトの依頼がなされた。日頃から、代表のケンタロ・オノ氏（日系1世）と連携するEPO東北をとおして相談を受けた。</p> <p>4月22日・23日 オノ氏が玉名市を訪問し関係団体と交流。 玉名市企画調整課、れんげ国際ボランティア会ともに好意的に対応いただき、来訪について歓迎の旨、キリバス協会に伝えた。</p> <p>オノ氏は、熊本県はもとより、佐賀県、宮崎県の温暖化防止活動関係での講演等実績を持っており、南太平洋諸国から脱炭素、海洋環境問題について発信している。</p> <p>対応：情報交換会の開催 9月21日、22日にケンタロ・オノ氏が熊本・玉名を訪問し、玉名市内の幼稚園との交流を実施。これにあわせて、市民情報交換会開催を提案し、関係団体と協力して企画開催。</p> <p>※協力団体 （一社）日本キリバス協会、玉名市、熊本県NPO法人くまもと温暖化対策センター、認定特定非営利活動法人れんげ国際ボランティア会、一般財団法人熊本市国際交流振興事業団、JICA九州</p>
初回相談日	令和3年4月2日（金）
写真	

相談者	西海国立公園 九十九島ビジターセンター
相談内容	<p>研修、修学旅行対応などにおいて SDGs に関する問い合わせやプログラム要望が増加している。基礎的事項や、業務への反映事例を通して、職員の知見を高め新たな視座を得る機会がほしい。SDGs の国内潮流、および基礎的な知識、学校、行政等の多組織での SDGs 導入事例、・ビジターセンター業務や地域連携について SDGs を導入するイメージなどを探る研修を、EPO 九州で対応をいただきたい。</p> <p>■対応 6月10日(木)、オンライン開催にて17名に研修対応。 九十九島ビジターセンターの他、水族館、リゾート施設、観光協会が参加。 対象を九十九島ビジターセンター職員とするほか、講話パートのみ九州管内ビジターセンター職員 若干名にも参加を呼びかけ、事例共有などの機会を創出した。また、地域 ESD 推進計画に関する、VC 領域のニーズや事例情報収集の機会としても活用した。</p>
初回相談日	令和3年4月3日(土)
アンケート回答より	<ul style="list-style-type: none"> ・SDGs が身近なものであると理解できた。 ・具体的な活動をイメージすることができた。 ・SDGs の歴史や現状などを詳しく知ることができた。 ・SDGs に対する感じ方が今回のセミナーを通して 180 度変わった。 ・より身近なものとして感じられるようになった。 ・ビジターセンター内での展示内容や、SNSを通して情報発信していることが SDGs に繋がっている。 ・ビジターセンターの立ち位置の図がとても印象的。 ・具体的な例を示していただいたので今後の活動の中に生かすことをイメージしやすく、とてもわかりやすい内容で学びの多い研修だった。 ・事前資料があり話の内容を理解するのに役立った。
写真	 

相談者	公益財団法人の全国事務局
相談内容	<p>財団の募集情報について、周知を行いたい。全国の EPO、GEOC によるネットワーク詳細をお伺いしたい。</p> <p>■対応 EPO 九州から各地方 EPO、GEOC へ依頼の件について共有を行った。その後、各地方 EPO から募集要項について情報の発信が行われた。</p>
初回相談日	令和3年4月14日(水)

相談者	熊本日日新聞社 すばいす編集部
相談内容	<p>7月に発行を予定する特集号にて SDGs の記事監修等依頼したい。</p> <p>■対応 編集部と打合せ全体の方向性を協議し、取材対応とは別に、誌面監修として関わる上で、経済、教育の専門家を交えた体制を提案した。</p>

	誌面監修の依頼として、熊本大学宮瀬教授、地方経済総合研究所を訪問し承諾を得る。 親子や若者を対象とした熊本での取り組みや楽しみながらSDGsに親しむ誌面づくりについて意見交換を実施。EPOやセンターで関わる案件、自治体の情報などについても提供を行った。 誌面監修にてSDGsをコミュニケーション、教育、経済の観点からとらえ、取り組みについて深める役割を担う。
初回相談日	令和3年4月16日(金)

相談者	熊本市国際交流振興事業団
相談内容	国際ボランティアワークキャンプでの「環境」分科会に取り組む、高校生グループの活動支援を行ってほしい。 ■対応 開催実行委員会での話し合いに同席、オンライン参加し、活動内容についてヒアリングを実施し、アドバイザーとして協力。 複数回の打合せをオンライン等で行い分科会の運営について助言を行った。 分科会資料について、高校生が作成するプレゼンテーションをもとに進め方やワークショップの工夫、展開についても助言を行った。 高校生の目線から、プラスチックをできるだけ使わない工夫やライフスタイルについて意見交換されるなど活発な討議が行われた。
初回相談日	令和3年5月14日(金)

相談者	熊本県高森町 市民
相談内容	野草草原保全活動の実践手法について相談。
初回相談日	令和3年5月8日(土)

相談者	宮崎市 環境部 環境政策課
相談内容	宮崎市では、市民向けとして、環境学習指導者養成講座を開催しており、SDGs・地域循環共生圏のセミナーの講師派遣について相談したい。 セミナー全8回を7月から予定しており、11月回で、SDGsや地域循環共生圏の話題を予定。90分から120分の内容について、セミナー講師を依頼。 ■対応 担当課と協議を重ね、11月20日宮崎市内にて講師対応を行った。
初回相談日	令和3年5月11日(火)
アンケート回答より	<ul style="list-style-type: none"> ・SDGsに関する具体的な資料を初めて見たので、今までより関心を持つことができた。 ・17個の目標が相互に関わり合っていると知れたこと。「そうめん流し」の例が分かり易かった。 ・ニュースで聞いたことや、知らなかったこともたくさんあり、とても有意義な講義だった。 ・環境問題というと大きな課題に向き合っていると感じるけど、相互に作用してバタフライエフェクトのように小さな事象から大きな事象が起こることが有るので、節水、ごみ拾い等小さなことでも懸命にすることが大切だと気づけた。 ・2時間の講義でSDGsの大まかな全体像から細かいところまで学べた ・例え話が多くて本題が分かりづらかった。 ・トレードオフの話は面白かった。 ・海洋ゴミの問題、有料レジ袋の質問に対する回答も興味深かった。

	<ul style="list-style-type: none"> ・SDGsの定義を改めてよく理解することができた。 ・講師の話が分かり易かった。 ・もっと講師に身近な生活のことなども聞いてみたいと感じた。 ・今まで言葉だけで聞いて分からなかったことが、本日の講義で腑に落ちた。 ・資料がたくさんあり、講座が分かりやすかった。
写真	

相談者	大分県内のNPO法人
相談内容	SDGsの取り組み方、金融の動きについて相談事項に対応したセミナー開催の可能性についてEPO九州に対応できるメニューはあるか。
初回相談日	令和3年5月12日(水)

相談者	沖縄奄美自然環境事務所 環境対策課
相談内容	<p>沖縄県、鹿児島県島嶼地域の状況についてEPO九州、九州ESDセンターから情報をいただきたい。</p> <p>■対応：地域の関係者を一部ご紹介。九州地域の地域循環共生圏、ESD推進計画などの側面から、担当者と情報交換を継続する。</p>
初回相談日	令和3年5月21日

相談者	九州地方環境事務所環境対策課
相談内容	<p>防災と環境教育の両側面に取り組んでいる団体情報を知りたい。</p> <p>■対応 各県で取り組みを積極的に行う団体を複数紹介した。</p>
初回相談日	令和3年5月21日(金)

相談者	自治体職員
相談内容	<p>自治体を越えたSDGs推進に向けた取組を検討している。事例等について情報提供いただきたい。</p> <p>■対応 来所の上、地域循環共生圏等の情報提供を行う。 また、高校生等と連携したSDGs啓発の状況についてもヒアリングを実施。</p>
初回相談日	令和3年5月27日(木)

相談者	自治体 環境部局
相談内容	<p>現在、ユース向けの温暖化対策動画を作成しており、素材として参考となる資料を案内いただきたい。</p> <p>■対応 環境省、JACCA等の提供教材、動画素材について取りまとめて共有した。</p>

初回相談日	令和3年5月28日(金)
相談者	福岡県内の大学教員
相談内容	<p>水素社会実装にかかる研究費申請ならびにモデルプロジェクト展開におけるEPO九州との連携可能性について情報交換をお願いしたい。</p> <p>■対応 オンラインで情報交換し、取組発信についての連携や、環境カウンセラー等の専門的なコミュニケーターのネットワークを介した普及啓発について意見交換。</p>
初回相談日	令和3年5月28日(金)
相談者	公益財団法人水島地域環境再生財団（みずしま財団）
相談内容	<p>協働取組全国事業を契機として発足展開された「公害資料館ネットワーク」について、今年度長崎でのフォーラム開催が計画されており、広報等、EPO・ESDセンターにて連携支援いただきたい。</p> <p>■対応 オンライン実行委員会にて情報収集し、名義後援や広報等による支援・連携を実施した。</p>
初回相談日	令和3年5月31日(月)
相談者	経済誌編集部
相談内容	<p>異業種交流会におけるSDGs研修講師を依頼したい。</p> <p>■対応 交流会にて、SDGs啓発及び地域循環共生圏の話題提供を行った。</p>
初回相談日	令和3年6月11日(金)
相談者	一般社団法人環不知火プランニング
相談内容	<p>水俣・芦北地域役場職員を含む小グループでの視察研修を計画している。小国町訪問を考えており、担当者を紹介いただきたい。</p> <p>■対応 小国町政策課、小国町森林組合の担当者にコンタクトをとり、受け入れについて調整し、主催者に連携。視察先については、主催グループのニーズをふまえ、地域循環共生圏の取組を含む、未来都市推進のコアとなる地熱エネルギー（発電所）活用、森林資源のブランド化とネットワーク展開を視察内容として調整を進めていただいた。 6月14日に実施された視察当日は、EPO九州も同行し、ネットワーク強化を図った。</p>
初回相談日	令和3年5月28日(金)
写真	

相談者	山都町農業企画団体 やまとでしか
相談内容	<p>令和3年度、山都町ではSDGs未来都市（自治体モデル事業）に選定された。今後、町をあげて推進体制づくり、企画運営を行っていくにあたり情報交換をお願いしたい。</p> <p>■対応 役場担当者、具体的な推進を担うチームづくりに関係するメンバーを交えた情報交換を行い、他都市の取組などについて紹介。 オンライン情報交換を行い、内閣府との折衝に向けたポイント説明を行った。 また食育企画についての相談を受け、小中学校でのSDGs授業を展開について連携することとし、現地取材を行い映像編集をサポートした。 初回の小学校授業の参加、また熊本日日新聞社SDGs特集の取材をコーディネートした。本取り組みについて熊日SDGs特集2月17日発行紙面にて掲載。</p>
初回相談日	令和3年6月22日(火)

相談者	大分県内のNPO法人
相談内容	<p>金融機関連携事業について、地域の開催概要を説明いただきたい。 行政、企業、大学経験者、消費者団体が参加する会議において、事例紹介したい。</p> <p>■対応 昨年度実施概要等について共有可能な範囲で情報提供。</p>
初回相談日	令和3年7月2日(金)

相談者	熊本県内の一般社団法人
相談内容	<p>九州を始めとした各地で、SDGsを主題に加えた補助制度実施状況があれば共有いただきたい。</p> <p>■対応 これまでの情報発信から、SDGs補助制度について関連を紹介した。 今後の情報共有を依頼するとともに、協働している企業の教育活動案件について共有いただく。</p>
初回相談日	令和3年7月6日(火)

相談者	宮崎県内の活動団体
相談内容	<p>地域循環共生圏推進ハンドブックを見て、関心をもったため、同ハンドブックを入手したい。</p> <p>■対応 団体宛に資料送付を行った。</p>
初回相談日	令和3年7月13日(火)

相談者	水俣環境アカデミア
相談内容	<p>今年度、水俣環境アカデミアが主催開催する市民公開講座でSDGsをテーマとするとともに、個別テーマについても取り上げる予定。11月に開催予定の分について、「エシカル消費」をテーマにEPO九州から講演いただきたい。</p> <p>■対応 11月13日開催の講座において、講演対応。</p>
初回相談日	令和3年7月21日(水)

相談者	電機分野企業 SDGs 推進担当者
相談内容	<p>環境に関する国内企業の取り組みや、動向について知りたい。</p> <p>■対応 相談後、支社長含め2名にてEPO九州に来所。相談対応と意見交換を実施。相談者は、社内、または社外とのSDGsについての取組、情報発信について苦慮。得意先との接触の中でも共通言語になってきている一方、社内での取組が進まないことが課題とのことであった。 EPO九州から、ローカルSDGsの推進や、環境省資料に基づく社内でのSDGs機運情勢のステップについて説明を行い、具体的な商材とSDGsの関連、また人材獲得の観点からの情報発信手法について提案等を行った。 相談後、SDGsに関する登録、ネットワーキングについて情報を取りまとめ、提供を行った。</p>
初回相談日	令和3年7月27日(火)

相談者	大江学園・第二大江学園（社会福祉法人肥後自活団）
相談内容	<p>社会福祉法人として障がい者支援、生活支援に取り組む中で、SDGsについての理解を職員全体で共有していきたい。研修講師としてEPO九州に協力いただきたい。</p> <p>■対応 8月13日に事務局を訪問し打合せを行い、企画相談を進める。 職員向けのSDGs研修を一齐に行うことは職務上困難なため、11月12日(金)を第1回目とし、約30名の研修を計3回実施する。 約100分の研修の進め方については、講義+カードゲーム+質疑応答をベースに、今後に向けての職員間の課題意識と目標設定につながるよう、打合せで協議した内容をもとに提案を行い対応した。</p>
初回相談日	令和3年7月28日(水)

写真	 
----	--

相談者	佐賀県商工会議所
相談内容	<p>令和3年度青年部連合会会員大会を伊万里大会として開催。SDGsについての講演パートを計画している。</p> <p>佐賀県内のSDGsの機運が高まっていないことから、佐賀県内の地域性とSDGsをどう繋げるのか、経営にどう活用していくかについて講演を依頼したい。</p> <p>■対応 佐賀県内のSDGs先進団体の協力を得て、研修対応を行う。 12月23日の事前学習、1月15日の会員大会に講師対応。 進行の中では、九州地方環境事務所からの情報提供を行った。</p>
初回相談日	令和3年8月24日(火)

相談者	熊本県内の一般社団法人
相談内容	国立公園に関する相談。
初回相談日	令和3年8月31日(火)

相談者	大分県内の大学生
相談内容	<p>環境課題解決を目的に、環境保全活動団体支援事業について起業を目指す学生から、ステークホルダー獲得に関して相談を行いたい。</p> <p>■対応 課題として、資金運用（調達）と活動団体の選定が相談の軸となった。 EPO 九州から、ステークホルダーづくりや活動団体との接点創出について、大分県など行政での起業家支援政策や、環境省はじめ省庁でのフォローアップの仕組みを中心に説明した。 9月28日、大分県内で活動する環境教育団体との意見交換の場をオンラインにて設定。活動団体の見地から支援プラットフォームに期待する点、ご感想を伺うとともに、学生からも団体のニーズについて質問が寄せられた。</p>
初回相談日	令和3年9月8日(水)

相談者	平成新山ネイチャーセンター
相談内容	<p>コロナ禍において、イベント等が中止に追い込まれている。 企画展も新しいアイデアが実施できないなどの課題があることから、EPO 九州の活動やSDGsに関するパネルを借用し展示できないか。</p> <p>■対応 10月2日、EPO九州より平成新山ネイチャーセンターを訪問。開催について意見交換を行い、ESD、SDGs啓発、地域循環共生圏に関する資料を提供するなど協力内容について打ち合わせを実施した。 3月12日、平成新山ネイチャーセンターへ関連のパネルを搬入。3月19日から4月10日まで管内で展示を行う。 また情報発信についても協力を行う。</p>
初回相談日	令和3年9月30日(木)

写真	
----	--

相談者	雲仙諏訪の池ビジターセンター
相談内容	<p>ビジターセンター職員を対象としたSDGs研修を実施していただきたい。 目的は、SDGsに関する基礎的事項や、業務への反映事例を通して、職員の知見を高め新たな視座を得ることとし、SDGsの国内潮流、および基礎的な知識獲得、SDGs導入事例紹介、ビジターセンター業務や地域連携についてSDGsを導入するイメージの共有を行いたい。</p> <p>■対応 令和4年1月17日の研修実施を計画し、対応。</p>

	研修にはビジターセンター職員のほか、地域内センター職員、自然保護官事務所からも複数が参加し、地域の持続可能性について議論を行った。
初回相談日	令和3年10月28日(木)
写真	

相談者	熊本県弁護士会、コスモス法律事務所
相談内容	<p>昨年度に引き続き、SDGs 研修の講師を依頼したい。</p> <p>昨年の研修を経て、県弁護士会の各種専門委員会（消費者問題対策委員会、子供の人権委員会、両性の平等に関する委員会、高齢者障害者に関する委員会、災害対策委員会、人権擁護委員会、犯罪被害者支援委員会、憲法委員会、法曹養成・研修委員会、中小企業法律支援センター委員会、両道貧困並びに自殺防止対策 PT）から横断的にメンバーを出し、SDGs プロジェクトチームを立ち上げた。</p> <p>今回はこの PT による研修会の位置づけとなっている。また、SDGs 推進官民連携プラットフォームへの入会手続きに入るなど、県弁護士会全体の動きが加速している。</p> <p>■対応 10月7日、オンラインでの研修を実施し、約30名の参加があった。</p>
初回相談日	令和3年7月30日(金)

相談者	自治体 再生可能エネルギー部局
相談内容	<p>再エネ率が地域で向上する中、SDGs のターゲットにおいて、特に SDG7 関連で自治体を取り組める点はあるか。</p> <p>また目標に付随する指標については、提供データの無いものや地方自治体では導入が困難なものが多いが、この点について改善に関する情報はないか。</p> <p>■対応 各ターゲットについて、地方自治体でカスタマイズ、ローカライズできる視点について解説した。またターゲット間の関わりや、同時解決性についても補足を行った。指標の扱いについては、現在のところ提供データが不足しているものがあり、この点について提供の情報は入手できていないが、2030年に向け段階を経て指標の整理が進む可能性があることを説明している。</p>
初回相談日	令和3年11月2日(火)

相談者	自治体 環境部局
相談内容	<p>活動団体として、地球環境基金の助成金の申請を検討したい。</p> <p>EPO九州にて接続いただき、地球環境基金の担当者と意見交換を行いたい。</p> <p>■対応 地球環境基金担当者に情報提供。意見交換実施。</p>
初回相談日	令和3年11月10日(水)

相談者	熊本日日新聞 生活情報部
相談内容	<p>熊本日日新聞社としてSDGsをテーマとした全社的なプロモーションを検討しており、そのプレ企画として11月から5ヶ月の特集企画を検討している。 監修・助言等での協力をいただきたい。</p> <p>■対応 来所いただき情報交換を行うとともに、EPOが関わる相談事案等をもとに掲載団体等を提案。 熊本県弁護士会、社会福祉法人、ユニセフの活動等についても情報提供した。</p>
初回相談日	令和3年10月12日(火)

相談者	福岡県の一般社団法人
相談内容	市民活動における休眠預金の利活用について情報交換。
初回相談日	令和3年12月8日(水)

相談者	企業 自治体営業部
相談内容	<p>SDGs研修ツアー内容について相談を行いたい。</p> <p>■対応 これまでの視察先紹介、研修対応で可能な範囲でご紹介した。</p>
初回相談日	令和3年12月8日(水)

相談者	大江学園・第二大江学園（社会福祉法人肥後自活団）
相談内容	<p>熊本市内の福祉施設等による熊本市社会福祉施設連合会の会員向けに、SDGs研修を行ってほしい。</p> <p>■対応 1月6日「SDGs知っておきたい基礎講座」にEPO九州から講師として登壇。</p>
初回相談日	令和3年11月12日(金)

相談者	大分県内のNPO法人
相談内容	<p>事業者から、SDGsの取り組みに関しての認証制度について問い合わせがあった。事業者としてわかりやすくSDGsへの取り組みが全面に出た証明書を受け取れるような制度はないか。</p> <p>■対応 自治体や金融機関が提供する認証制度、登録制度について紹介した。</p>
初回相談日	令和4年1月12日(水)

相談者	クリム編集部
相談内容	<p>年間を通じた連続企画として、次年度SDGsに関する連続掲載を予定。 EPO九州にアドバイスをいただきながら、組合員が「じぶんごと」として捉えられるような記事を掲載したい。 熊本日日新聞「すばいす」を見てEPO九州への依頼を検討。</p> <p>■対応 担当者とEPOにて、年間をとおした掲載ビジョンについて打ち合わせを実施。 新年度発行分からの掲載紙面について助言、取材対応を行う。</p>

	誌名：クリム（A4判 オールカラー84 ページ） 発行元：生活協同組合連合会コープ九州事業連合 参加生協の店舗（86 店舗）で店頭販売 九州・沖縄エリアで3万部発行
初回相談日	令和4年1月25日(火)
相談者	企業 自治体営業部
相談内容	再生可能エネルギーや地域振興に関する取組みについて九州地方の状況に関する意見交換を行いたい。 1月27日、意見交換を実施。
初回相談日	令和3年1月14日(木)
相談者	自治体 環境部局
相談内容	SDGsの取組と脱炭素社会の実現の関係についてご教示いただきたい。 ■対応 九州地方環境事務所と情報共有の上、文書にて回答を行った。
初回相談日	令和4年2月23日(水)
相談者	熊本県内の一般社団法人
相談内容	ローカル SDGsの各地の取組みについて、特に一次産業、とりわけ農業関連の先行事例について伺いたい。取組みの主体は行政、企業、NPOなど問わず、事例を知りたい。 ■対応 情報収集発信のうち、事例について集約し案内を行った。 今後も事業展開等、情報交換を実施。
初回相談日	令和4年2月25日(金)
相談者	熊本県内の企業
相談内容	熊本市と熊日びぶれすスタジオ（コワーキングスペース）が協働して、学生の就活支援、キャリア支援を行う。 これにあたり、SDGsについての講話とワークショップ運営を相談したい。 ■対応 3月4日 取組共有会合にて30分程度のSDGsレクチャーと情報交換をファシリテート。キャリア活動における共通話題としてSDGsを活用する機会に向けたインプットを行った。
初回相談日	令和4年3月4日(金)

(2) 地域課題解決に向けた SDGs の活用に関するセミナー等の開催

●業務目標

北部九州に比べて SDGs やローカル SDGs（地域循環共生圏）の取組が進んでいない南部九州において、SDGs の理解度を向上させ、地域課題解決に向けた取組を推進する。

SDGs 未来都市である鹿児島県大崎町と連携し、大崎町 SDGs 推進協議会による地域プラットフォームの活動、並びに地域循環共生圏づくりに取組む、みやざき SDGs プラットフォームと連携し相互の情報交換をもとにした交流会を開催し、先進的な知見について広く発信した。

行事名	南九州 SDGs 交流会
目的	南九州エリアの SDGs 活動推進に向け、積極的に SDGs を活用し、循環型のまちづくりを展開する SDGs 未来都市、大崎町（鹿児島県）の取組を紹介する。 また、宮崎県内の多様なステークホルダーによりスタートした「みやざき SDGs プラットフォーム」の活動紹介とともに意見交換を実施し、南九州エリアで SDGs 推進に向けたプラットフォームとしての活動づくり、広域的なネットワークづくりにご関心を持つ自治体、企業、団体の皆様の交流を促進する。
開催日時等	日時：令和 3 年 11 月 19 日(金) 13:30-15:15 会場：オンライン オンライン開催 共同主催：九州地方環境パートナーシップオフィス、みやざき SDGs プラットフォーム
概要	<p><次第></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 2. 【趣旨説明】 EPO 九州の紹介と地域循環共生圏について 3. 【話題提供】 「SDGs 未来都市 大崎町の取組」 大崎町 SDGs 推進協議会／大崎町企画調整課 中村 健児 氏 4. 【活動紹介】 「みやざき SDGs プラットフォームの取組」 5. 【意見交換】 6. まとめ <p>参加者 43名</p>
アンケート回答より	<p>大崎町の取組について</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 住民に向けての説明や庁内の合意形成を成し遂げたところが凄さだと感じた。（宮崎県） ● 資源ごみリサイクル率を上げるためにどのような準備をされたのか、何から手をつけられたのか、参考にさせていただきたい事項が多々あり、大変勉強になりました。また、市民の皆様の意識と行動を変える行政の働きかけがすばらしいと感じました。（地方自治体） ● 衛生自治会が動いているというのにビックリしました。（製材業） ● 地域の環境問題の一丁目一番地ともいえる廃棄物処理について、住民を巻き込んだ取り組みを継続して着実に進めてこられたことは素晴らしいと思いました。（情報通信業） <p>みやざき SDGs プラットフォームの取組について</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 立ち上がったばかりですので、これから認知度を高めていくために定期的に今回のようなセミナー等の企画は必要だと思います。SDGs は流行りやブームとして

	<p>捉えられがちな一面もありますが、ぜひ継続的な活動となることを期待しております。（小売・サービス業）</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 企業もさまざまな業種・業態と連携していかなければならないと思いました。（小売業） ● プラットフォームの一員として、宮崎県民に SDGs を広める効果的な啓発活動を工夫したいと考えています。（情報通信業） ● 個として取り組みではなく、組織として動くことで、大きなムーブメントとして動かせる機動力になると感じました。（教育支援） <p>意見交換について</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 企業版ふるさと納税の活用や広報機関との連携など今後の展開に活用できそうな有益な情報をたくさん得ることができました。大変実りある時間をありがとうございました。（地方自治体） ● EPO 九州の方による進行が大変きめ細やかで、様々な質問・回答・感想を聞かせていただくことができました。ありがとうございました。（建設業） <p>今後、SDGs 達成に向けて取り組みたいこと（カッコ内は業種・分野などの記載）</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 業界関係者と若者が一緒に行うワークショップやパネルディスカッションの開催（製材業） ● 県内の各商工会議所を通じて事業者等への周知に努めたい。（経済団体） ● 宮崎県内で SDGs の模範例となる活動を展開する個人団体や学校の表彰制度を創設予定です（情報通信業）
<p>成果等</p>	<p>交流会をとおして、地域ぐるみでの SDGs に関する取組における住民合意形成の重要性が示された。また、プラットフォーム運営における行政と民間団体の役割分担や巻き込みについて、パートナーシップの考え方を据えた組織等の設計や身の丈に応じた事業展開など、活動のヒントや今後の取組に向けたモデルとなる考え方が共有された。</p>
<p>写真等</p>	

（3）SDGs の活用に向けた人材育成

●業務目標

環境カウンセラーの SDGs についての理解度を向上させるとともに、環境カウンセラーが SDGs 達成に貢献するものであることを外部にアピールすることによって、環境カウンセラーの更なる活用を促し、もって SDGs の普及啓発や SDGs に取り組むプレイヤーの増加に寄与する。

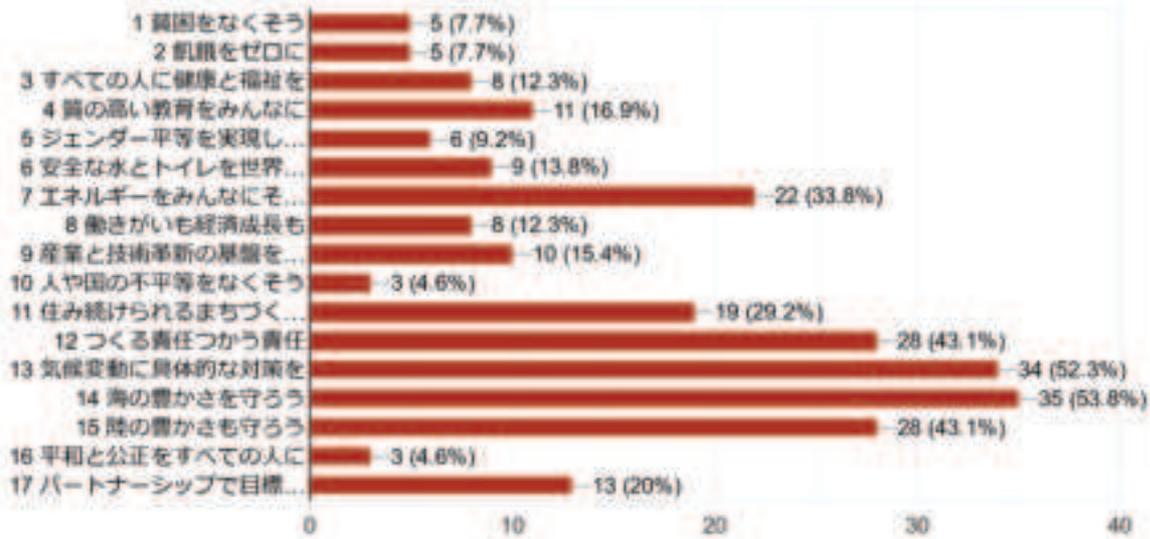
九州・沖縄で活動する環境カウンセラー（市民部門・事業者部門、延べ 321 人）が積極的に SDGs を活用し、ネットワークを拡充させることを目指しアンケートの実施、セミナーの開催等に取り組み、対面やオンラインでの意見交換をとおして課題の共有やネットワークの方向性について検討を行った。

ア、環境カウンセラーアンケートの実施

地域の環境カウンセラー協会をとおして、メール等での周知によりアンケートを実施した。
回答 65名

回答概要

①SDGs についての関心（複数回答、3つまで）



②SDGs に関する相談対応状況



企業や団体からの相談・連携	16件
環境学習等での講演など	18件
エコアクション21に関連しての相談	6件
地域計画や公的な関り	6件

③SDGs に関する相談対応の強化に必要なこと



④環境カウンセラーの活動推進上の課題



イ、セミナー・意見交換会の開催

①ローカル SDGs セミナーの開催

行事名	ローカルSDGs 推進セミナー
目的	地域と連携した SDGs 推進に向け、地域でのコーディネートを担う地域人材の視点から、SDGs を活用した地域活性化の考え方を発信する。 また、本セミナーは環境カウンセラーの資質向上とネットワークづくりをあわせて企画し、公開型の研修会として実施する。
開催日時等	開催日：令和3年7月1日（木）10：30～12：20（110分） 会場：エコテクノ展内 セミナー会場C（オンライン併用） 開催形態：対面とオンライン 主催：九州地方環境パートナーシップオフィス 共催：NPO 法人九州環境カウンセラー協会 備考：ローカル SDGs 推進セミナーと同日開催
概要	<次第> 主旨説明（10分、地域循環共生圏説明を含む） 基調講演（45分） 講演（20分） 意見交換（25分） 登壇者：基調講演 法政大学 デザイン工学部 教授 川久保 俊 氏 講演 北九州市立大学 経済学部 教授 牛房 義明 氏 参加者：会場 50名、オンライン 28名
アンケート回答より	住民と企業および政府諸施策が進んでいく必要があるが、脱炭素社会に向け意義のあるご講演内容であった。 SDGs を評価するうえで課題になる指標等について有益な情報を頂けた。 SDGs は認知から実践のフェーズに移行し、自己評価の流れが加速しているという話が聞いて良かった。 地域循環共生圏の全体像が理解できた。 住民参加型の SDGs 推進が必要だと考える。
写真等	

②カウンセラー意見交換会の開催

行事名	環境カウンセラー情報交換会	
目的	アンケート、ローカル SDGs セミナーをふまえて環境カウンセラーのネットワーク形成に向けた取り組みについて意見交換し基盤強化を図る。	
開催日時等	開催日：令和3年7月1日（木）13:45-15:15 会場：西日本総合展示場 エコテクノ2021 内 会議室（オンライン併用） 開催形態：対面とオンライン 主催：九州地方環境パートナーシップオフィス 共催：NPO 法人九州環境カウンセラー協会 備考：ローカル SDGs 推進セミナーと同日開催	
概要	<p><次第></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 主旨説明 2. EPO 九州の取り組み 3. 地域循環共生圏について 4. アンケートをもとにした情報交換 	
成果	今後の推進に必要な支援策として以下の論点が把握された。	
	ネットワーク・連携	環境カウンセラー間、地域協会を超えたネットワーク構築。 各県内での環境人材等とのネットワークづくり。
	認知度	環境省による周知強化。SDGs 等に関連した発信強化。 行政やマスコミと連携した周知。
	スキルアップ	オンライン対応等を含むスキルアップ、研修機会の拡充。 温暖化防止等に係る専門的内容の習得。
	活用・活躍の場づくり	自治体や企業と連携した活躍の場。 環境教育等の推進における役割の明確化。
写真等		

ウ、フォローアップヒアリング

行事名	環境カウンセラーフォローアップ	
目的	セミナー、アンケート等により把握された活動ニーズや環境カウンセラーのネットワークづくり、発信についてフォローアップし取組の強化を図る。	
開催日時等	開催日：令和4年2月17日（木）15:30-16:30 会場：オンライン	
概要	<ol style="list-style-type: none"> ①ローカル SDGs セミナー内容の振り返り及びその後の活動のフォローアップ ②EPO 九州/九州 ESD センターによる SDGs コンテンツページについて（環境カウンセラーの SDGs と絡めた外部アピール） 	

(4) 全国 EPO ネットワーク・関係事務局との連携、連絡会議参加

地球環境パートナーシッププラザ・地方 EPO はもとより、地域循環共生圏支援全国事務局等との連携を密にし、連絡会議等に積極的に参加し九州・沖縄ブロックとしての成果・課題の共有と発信を行った。

全国事業による研修・分科会等の開催にあたっては参加協力を行い、ネットワークづくりを支援した。

行事名	令和3年度 第1回 全国 EPO 連絡会議
開催日等	令和3年6月28日(月) 13:30-18:30 29日(火) 9:30-16:30 会場：高松センタービル601号室
概要	<p><次第></p> <p>■6月28日(月)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 開会あいさつ 2. 事務連絡 3. 開催地オリエンテーション <p>GEOC および各 EPO から自己紹介と今年度重点事業について報告</p> <p>【議題 1】 EPO ネットワーク事業について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ EPO カタログ ver.2 に向け、EPO 基盤業務に関する意見交換 <p>【議題 2】 外部連携について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地球環境基金 助成金説明会開催協力 ・ Green Gift 地球元気プログラム ・ 質疑応答 <p>■6月29日(火)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地方環境事務所事務所会議及び EPO 受託者会議 ・ エクスカーション <p>女木島でのビーチクリーンアップ</p>
成果 ・ 検討事項	<p>環境省、GEOC、全国各地域の EPO 間の情報を共有し、各事業についての確認を行う今年度第一回連絡会に出席した。今年度は四国 EPO の協力のもと、香川県高松市開催となった。</p> <p>連絡会プログラムでは四国事務所、四国 EPO の取り組み紹介が行われ、併せて各地方 EPO の今年度重点施策について情報交換を実施した。</p> <p>また、EPO ネットワーク事業について、基盤業務及びネットワーク上の価値創出に関し、カタログ発信ツールの観点から議論を行った。</p> <p>また地域循環共生圏プラットフォーム事業を始めとした各事業におけるスケジュールの共有と、意見交換を実施した。</p> <p>次に、外部連携事業に関して、地球環境基金、および GreenGift 地球元気プログラムにおける令和3年度の取組について、前年度との変更点などを中心に情報を共有し協議を進めた。</p> <p>翌29日には、高松市女木島にて現地活動団体、NPO 法人アーキペラゴの案内のもと、島内ビーチクリーンアップのエクスカーションに参加し、地域の環境保全やネットワーキングに関して意見交換を行った。</p> <p>2日間の連絡会により、令和3年度事業の方向性が共有されたとともに、EPO ネットワークの連携が強化された。</p>